

大阪市総合教育センター
教育振興担当 実践研究グループ
首席指導主事様

研究コース
A グループ研究A
校園コード(代表者校園の市費コード)
751732

代表者	校園名:	長原小学校
	校園長名:	藤松 大樹
	電話:	06-6708-0105
	事務職員名:	小野 麻朝
申請者	校園名:	長原小学校
	職名・名前:	主務教諭 石井 開
	電話:	06-6708-0105

令和8年度「がんばる先生支援事業」申請書

◇本研究の支援を受けたく、次のとおり申請します。

1	研究コース	コース名	A グループ研究A	研究年数	新規研究(1年目)
2	研究テーマ	「すべての子どもも大人もいきいきしてる学校づくり —探究活動『長原タイム』が育む、自立と共生の資質・能力—			
3	研究目的	<p>テーマに合致した目的を項立てして記載してください。</p> <p>本研究では、午後の全時間を充てる独自の探究活動「長原タイム」を通して、「令和の日本型学校教育」における「新しい教師の学びの姿」を具現化し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現を目指す。</p> <p>(1)「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現 「個人探究(個別最適な学び)」と「クラス探究・長原フェスティバル(協働的な学び)」を実施し、子どもが自らの問いを深め、他者と協働して課題を解決するプロセスを通じて、本校が掲げる「3つの力(自分も人も大切にできる力、自分で考えて行動する力、自分からチャレンジする力)」を自律的に高め合う姿を目指す。</p> <p>(2)教師の役割の転換：主体的・自律的な「伴走者」への変容 教師自身が「指導」という固定概念から脱却し、子どもの「やりたい」を支える「デザイン」の担い手へと変容することを目指す。教師が子どもと共に試行錯誤し、変化を前向きに受け止めて学び続ける「新しい教師の学びの姿」を確立する。</p> <p>(3)「やりたい」を軸にした当事者意識の育成 子どもが学習の主人公として当事者意識を持つだけでなく、教員一人ひとりが「自らも学びの楽しさを追求する当事者」として研究に取り組む。この「学びの楽しさ」の共鳴が、学校全体に「自律的な学びの文化」を醸成することを検証する。</p> <p>(4)未来を切り拓く資質・能力を育むカリキュラム・デザインの開発 「自由進度学習」や「プロジェクト学習」の要素を取り入れた「長原タイム」の具体的な手立て(環境整備、支援のあり方、リフレクションの手法など)を考え、カリキュラムデザインを開発する。</p>			
4	研究内容	<p>①研究内容の詳細 ※継続研究2年目以降は1年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>研究の方向性 児童の自律的な学びと教師の伴走型デザイン</p> <p>(1)現状と課題：本校では午後の全時間を探究に充てる独自の「長原タイム」を展開し、児童が探究的視点を持って活動するなど主体的な姿が見られるようになった。しかし、個人の学びを集団の学びとしてつなげることができていないことや教員が主導して行う学習活動が多く展開されている現状がある。またすべての児童が「やりたい」という当事者意識をもって活動しているわけではなく、教員自身が学びの当事者として楽しむ文化の醸成が必要となっていることもわかった。</p> <p>(2)研究の方向性 本校が抱える課題を解決するために長原タイムの時間を活用して以下の活動に取り組む。</p> <p>①「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現：「個別最適な学び」を実現するために長原タイムの時間を活用した個々の問いを深める個人探究やプロジェクト学習の実施、自由進度学習の深化を行っていく。さらに個人探究で得た学びを活かし、クラスの探究学習や長原フェスティバルを行うことで「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な実現を目指す。</p> <p>②教員の役割の転換「伴走者」への変容：児童が立ち止まった際、すぐに正解を与えず子ども同士のリソースを繋ぐなど、教員が無意識に行っている「3つのD(だいじょうぶ? どうしたん? どうしたい?)」に基づく支援を収集・言語化し、「伴走型デザイン」の知見として共有する。</p> <p>③「やりたい」を軸にした当事者意識の醸成：「やりたい」という子どもの思いから個人探究やクラス探究の内容を考えて実施し、本校が掲げる「3つの力(自分も人も大切にできる力、自分で考えて行動する力、自分からチャレンジする力)」を自律的に高め合う姿を目指す。さらに、教員自身も自らの「やりたい」研究テーマを持ち、長原タイムの中で子どもと共に試行錯誤する姿を提示する。教員間の研究協議では、指導法のみならず、子どもの変容という「事実」を基に学習環境を語り合う体制を整え、学校全体に「自律的な学びの文化」を醸成することを検証する。</p> <p>④学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長原ファーム(野菜作り)・長原マート(学校や地域で児童が野菜や小物を売る活動) ・長原パーティ(つくった野菜や売って稼いだお金を使って家庭・地域に還元するイベント) ・長原フェスティバル(学校全体や家庭、地域へクラスの探究学習を発表しつなげる行事) <p>このような学校・家庭・地域が連携した取り組みを長原タイムの時間を活用して行い、地域や家庭と子どもや学校がつながり、共生する力を育成する。</p> <p>(3)研究の汎用性・継続性 以上のような長原タイムにおける活動を実施することで、「令和の日本型学校教育」における「新しい教師の学びの姿」を具現化し、「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現を目指すことができる。カリキュラムデザインを行い、教科横断的な時間の活用を図り、学校全体として目指す子どもの姿を共有することで、学校ごとの目指す形に応じた教育活動が展開できる。また子どもや教員の自律的な学びと教師の伴走者としての役割の獲得により、継続した「個別最適な学び」や「協働的な学び」の実現を目指すことができると考える。</p> <p>②継続研究[2年目] ※継続研究3年目の場合は、2年目の記載をコピーして貼付する</p> <p>③継続研究[3年目]</p>			

5	活動計画	<p>日程や内容など、研究の過程がわかるように詳細に記載してください。</p> <p>4月【研究企画会】 ・研究テーマ、研究の進め方、見込まれる成果等について検討する。 【研究推進委員会①】 ・研究内容の焦点化を図る。 ・児童アンケート、教員アンケートを作成する。</p> <p>5月【研究推進委員会②】 ・年間計画の共通理解を図る。 ・児童アンケート、教員アンケートの実施、分析</p> <p>7月【研修会①②③④⑤】「野菜の育て方①②③④」「意見をつなぐ学び合いの授業①」 8月【研修会⑥⑦】「野菜の育て方⑤」「学びの必然性①」 9月【研修会⑧】「野菜の育て方⑥」 10月【研修会⑨⑩】「野菜の育て方⑦」「意見をつなぐ学び合いの授業②」 11月【研修会⑪】「野菜の育て方⑧」 12月【研修会⑫⑬】「学びの必然性②」「野菜の育て方⑨」 【研究推進委員会③】 ・児童アンケート、教員アンケートの実施、分析</p> <p>1月【がんばる先生支援 研究発表会】 【研修会⑭】「野菜の育て方⑩」</p> <p>2月【研究推進委員会④】 ・がんばる先生支援報告書作成・提出</p> <p>3月【研究推進委員会⑤】 ・研究のまとめ作成 【研究全体会】 ・次年度にむけて、本年度の成果と課題の共通理解</p>
		<p>出張を伴う研究会への参加、外部講師を招聘する研修会の実施等、経費執行が必要な取組内容を記載してください。</p> <p>目黒区立上目黒小学校 視察 学校法人軽井沢風越学園 視察 「野菜の育て方研修会」 鈴木由美 年10回予定 「意見をつなぐ学び合いの授業」研修会 田畑栄一 年2回予定 「学びの必然性」研修会 四辻伸吾 年2回予定 研究発表会 指導助言 講師未定</p>
6	見込まれる成果とその検証方法	<p>①継続研究（2年目、3年目）において検証方法の変更の有無を記入してください。</p> <p><input type="checkbox"/> 変更しない。 理由</p> <p><input type="checkbox"/> 変更する。</p>
		<p>②大阪市教育振興基本計画に示されている、「<u>子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力</u>」の育成および、「<u>教員の資質や指導力</u>」の向上について、それぞれ見込まれる成果を端的に記載し、その成果について客観的な指標により、必ず数値で示すことができる検証方法を記載してください。（いずれかに☑を入れてください）</p> <p>【見込まれる成果1】 ☑ 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 ☐ 「教員の資質や指導力」の向上 自らの興味・関心に基づいて探究のテーマを設定し、試行錯誤しながら粘り強く課題を解決しようとする「自分で考えて、行動する力」が育つ。</p> <p>《検証方法》 児童アンケート：「長原タイムで、自分でやりたいことを決めて取り組むことができたか」の肯定的な回答割合を80%以上とする。</p> <p>【見込まれる成果2】 ☑ 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 ☐ 「教員の資質や指導力」の向上 クラス探究や長原フェスティバルにおいて、他者と対話しながら合意形成を図り、「自分も人も大切にす力」や「人の力を活用する力（受援力）」を発揮できる。</p> <p>《検証方法》 「困ったときに友だちに助けを求めたり、友だちの活動の良さを取り入れたりしたか」の肯定的な回答割合を75%以上とする。</p>

6	見込まれる成果とその検証方法	<p>【見込まれる成果3】 <input checked="" type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上 学期末の「風船」を用いた振り返りを通して、自分の3つの力の高まりや成長を自覚し、自己肯定感（本当の意味での生きる力）が高まる。</p> <p>≪検証方法≫ 児童アンケート（自己肯定感）：「3つの力をのばすことができた」の肯定的な回答割合を70%以上とする。</p> <hr/> <p>【見込まれる成果4】 <input type="checkbox"/> 「子どもが心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力」の育成 <input checked="" type="checkbox"/> 「教員の資質や指導力」の向上 教員自身が当事者意識を持ち、「やらねばならない」ではなく「やりたい」という意欲のもとで、同僚と協働しながら学びを楽しむ「新しい教師の学びの姿」が確立する。</p> <p>≪検証方法≫ 「教員自身が長原タイム（あるいは校内研究）を当事者として楽しんで取り組めたか」の肯定的な回答割合を80%以上とする。</p>						
7	研究成果の共有方法	<p>◆研究発表【必須】 報告書提出日までに必ず行ってください。</p> <p>○研究発表の日程・場所（予定）</p> <table border="1" data-bbox="507 824 1295 882"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 9 年 1 月 29 日</td> <td>場所</td> <td>長原小学校</td> </tr> </table> <p>◆【必須】 waku².com-bee掲載による共有</p> <p>○掲載の日程（予定）</p> <table border="1" data-bbox="507 943 948 1001"> <tr> <td>日程</td> <td>令和 9 年 2 月 18 日</td> </tr> </table> <p>◆他の共有方法を計画している場合は記載してください。</p>	日程	令和 9 年 1 月 29 日	場所	長原小学校	日程	令和 9 年 2 月 18 日
日程	令和 9 年 1 月 29 日	場所	長原小学校					
日程	令和 9 年 2 月 18 日							
8	代表校園長のコメント	<p>1. 新規研究（1年目） 大阪市教育振興計画の最重要目標2「未来を切り拓く学力・体力の向上」の基本的な方向4「誰一人取り残さない学力の向上」の目標に向け、午後の学習時間「長原タイム」を核とした教育活動を推進している。これまでの取り組みを通じ、子どもたちが探究的な視点で活動に取り組む中で、一人ひとりが主体的・意欲的に学ぶ姿が顕著に見られるようになってきた。知識を一方的に受け取るのではなく、自ら学ぶ「探究のプロセス」こそが、多様な背景を持つ子どもたち全員の学びを保障する鍵であると確信している。これまでに築いた学びの土台をさらに強固にし、子どもたちの探究心をより深い学びへと繋げていく。個々の「知りたい」「やってみよう」という意欲を丁寧に引き出し、仲間と共に高め合える環境を整えることで、すべての子どもが実感できる授業づくりとしていきたい。</p> <p>2. 継続研究（2年目）</p> <p>3. 継続研究（3年目）</p>						